

ちいさな建設

杵築城

Goro

ビューに映え、 ビューを楽しむ



大分県、国東半島を南側に回り込んだところに守江湾がある。湾へ注ぐ八坂川の河口には昔から台山と呼ばれる台地が迫り、先端に立つのが杵築城天守だ。城から西の方に歩いて一五分ほど、「きつき城下町資料館」に隣接する展望台に上ると、視線はその一点に吸い込まれる。一九七〇年に建設された小規模なRC造、三層三階の模擬天守で、石垣を含む高さは約一九m。延床面積約三二〇平方mの内部は歴史資料館として公開。三階の高欄からは三六〇度の見晴らしが開ける。まさに杵築市のランドマークである。

杵築城の歴史は古く、室町時代に始まり、江戸時代初期にかけて変遷した城郭跡や、政庁となつた藩主御殿跡などが約五万平方mにわたり国の史跡に指定されている。一六一五年の一国一城令で城の施設が破却（廃止）されてから、現代に天守が現れるまで三五〇年ほど。旧杵築市の市制一五周年を機に、観光や教育・文化の振興を図る事業として計画され、多くの市民からの支援によって実現し、親しまれ続けている。

アクセス バス停「杵築城入口」から歩いて12分ほど